東北大学
TOHOKU UNIVERSITY

Press Release

2022 年 7 月 15 日

報道機関　各位

東北大学大学院文学研究科

旧石器時代終末の北海道から本州への移民時期を確定
-山形県大石田町角二山遺跡の発掘成果-

【発表のポイント】

- 山形県大石田町角二山（かくにやま）の再発掘調査で、黒曜石でできた石器が出土
- 約 18,000 年前（暦年較正）後期旧石器時代の石器であることを確定
- 黒曜石の産地と製作技術から、旧石器時代終末の北海道から本州への移民時期が約 18,000 年前であると結論

【概要】

山形県角二山遺跡は、細石刃[注1]を特徴とする後期旧石器時代の遺跡で、1970 年に最初の発掘がなされました。遺跡から出土した石器の製作技術は北海道に多くみられる湧別技法であることから、その技術が東北日本に南下したことが判明していました。しかし、南下の年代は明らかになっていませんでした。

東北大学大学院文学研究科考古学研究室の鹿又喜隆教授らは、2017～2020 年に同遺跡を再発掘し、黒曜石でできた細石刃や細石刃核、彫刻刀形石器、剥片、砕片などの石器を得ました。蛍光 X 線元素分析により、黒曜石には北海道白滝産と秋田県男鹿産があることが判明しました。前者は北海道にみられる製作技術、後者は本州にみられる技術で作られています。また、在地の頁岩を使い湧別技法によって作られた石器が出土総数の大多数を占めます。炭化物の放射性炭素年代測定を行ったところ、いずれも較正年代で約 18,000 年前の所産であることがわかりました。

こうした状況から、北海道からの移民が、男鹿産の黒曜石をもった在地の人々と行動を共にし、山形県角二山遺跡のある土地にやってきたのは約 18,000 年前のことだったと結論できます。

本成果は、Springer から 2022 年 6 月に出版された電子書籍『Quantifying Stone Age Mobility』に掲載されました。

【問い合わせ先】
東北大学大学院文学研究科　教授　鹿又喜隆
電話　022-795-6071
E-mail Yoshitaka.kanomata.d8@tohoku.ac.jp

【詳細な説明】

山形県角二山遺跡は、細石刃[注1]を特徴とする後期旧石器時代の遺跡で、1970年に最初の発掘がなされました。石器の製作技術は北海道に多くみられる湧別技法であることから、その技術が東北日本に南下したことが判明していました。しかし、南下の年代は明らかになっていませんでした。

東北大学大学院文学研究科考古学研究室の鹿又喜隆教授らは、2017～2020年に同遺跡を再発掘し、黒曜石でできた石器を発掘しました。蛍光X線元素分析装置を用いた黒曜石産地分析を行ったところ、北海道白滝産の黒曜石製石器67点、秋田県男鹿産の黒曜石製石器22点があることがわかりました。前者は北海道にみられる湧別技法などの細石刃製作技術で作られ、後者は本州にみられる技術で作られています。また在地の頁岩を用いて湧別技法によって作られた石器は出土総数の大多数を占めます。

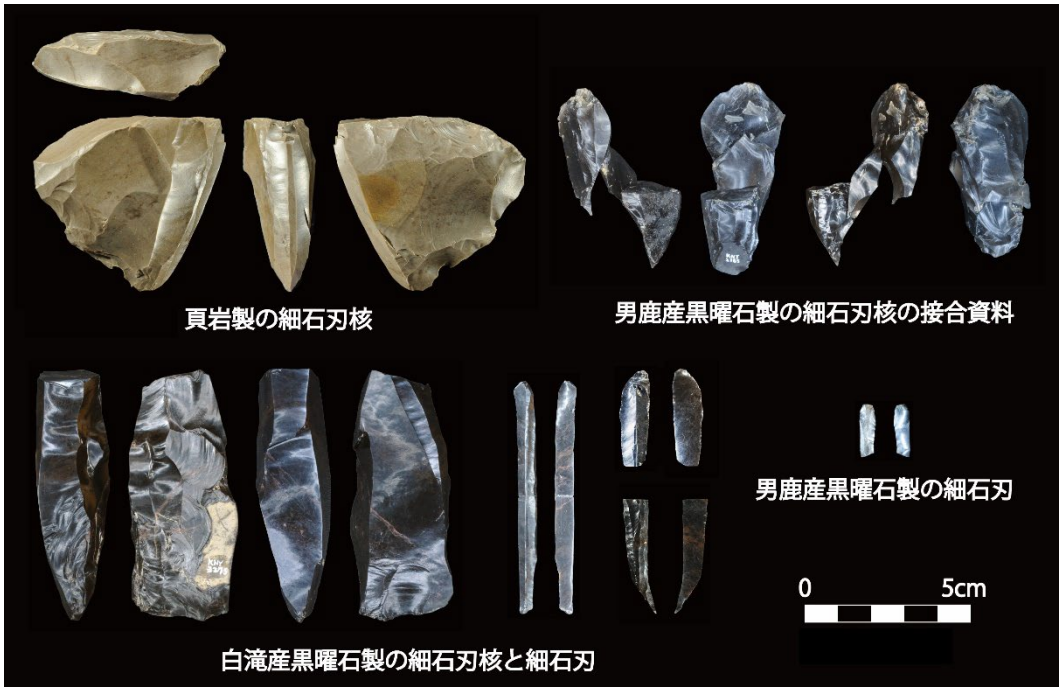

図. 出土品と出土状況、発掘現場遠景

これらの石器は分布範囲を違えながらも、同一層から出土しています。各石器集中地点に伴う炭化物の放射性炭素年代測定によって、それらが約 18,000 年前（暦年較正）の所産であることが判明しました。こうした状況から、北海道から本州へ渡った移民が、男鹿半島産の黒曜石をもった在地の人々と行動を共にし、遺跡のある土地に暮らしていたと考えられます。

【用語説明】

注1　細石刃: 長さ２㎝、幅５㎜ほどの薄く細長いカミソリの刃のような石器。骨角器の側縁の溝に嵌め込んで、槍や銛などの組合せ式の道具として使われた。

書誌情報

タイトル　Obsidian Transportation Across the Tsugaru Strait in the Context of the Late Pleistocene
著者　Yoshitaka Kanomata, Yosuke Aoki, Shigeki Sasaki, Ryosuke Kumagai, Kaoru Akoshima, and Andrey V. Tabarev
書名　*Quantifying Stone Age Mobility*
eBook ISBN　978-3-030-94368-4
Print ISBN　978-3-030-94367-7
リンク　https://link.springer.com/book/10.1007/978-3-030-94368-4?sap-outbound-id=3590E620D92C5ACE8B9B5BCA69E8CA03F9AB4153